

UNAFEI

UNITED NATIONS ASIA AND FAR EAST INSTITUTE
FOR THE PREVENTION OF CRIME AND THE TREATMENT OF OFFENDERS



国連アジア極東犯罪防止研修所





アジ研について

国連アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI（ユナフェイ）又はアジ研）は、「犯罪の防止及び犯罪者の処遇に関するアジア及び極東研修所を日本国に設置することに関する国際連合と日本国政府との間の協定」（昭和36年条約第四号）に基づいて、1962年に設置された機関であり、ウィーンの国連薬物・犯罪事務所（UNODC）を中核とする国連犯罪防止・刑事司法プログラム・ネットワーク機関（PNI）の一つです。

アジ研は、PNIの中でも最も長い歴史と実績を持つ機関として、UNODC及び他のPNIと緊密な連携を取りながら、国連の目指すグローバルな犯罪防止や犯罪者処遇に関する政策の立案・実施に協力し、持続可能な開発目標（SDGs）の推進に努めています。

このように、アジ研は、60年以上にわたって、主に開発途上国を対象とした刑事司法分野の人材育成を行うとともに、刑事司法分野における国連準則等の策定・普及・実現に寄与してきました。こうした国際社会への貢献が国内外で高く評価され、2003年には人事院総裁賞を受賞しています。



今上陛下（当時皇太子殿下）の御来訪



タイ王国パッチャラキティヤパー王女殿下の御来訪

アジア研の沿革

1954年	第1回国連犯罪防止・犯罪者処遇アジア会議においてアジアに国連地域研修所を設立すべき旨の決議
1961年	国際連合・日本国政府間の国連地域研修所設置に関する協定の調印
1962年	アジア研初代庁舎落成・第1回国際研修実施
1982年	アジア研2代目庁舎落成
1990年	第8回コンGRESにおいて東京ルールズが採択される
1993年	皇太子殿下（当時）御来訪
2002年	アジア研創立40周年記念行事
2003年	人事院総裁賞受賞
2009年	タイ王国パッチャラキティヤパー王女殿下御来訪
2012年	アジア研創立50周年記念行事
2013年	タイ王国パッチャラキティヤパー王女殿下2度目の御来訪
2017年	国際法務総合センター（昭島市）へ移転（3代目庁舎）
2022年	アジア研創立60周年記念行事



アジア研初代庁舎



アジア研2代目庁舎

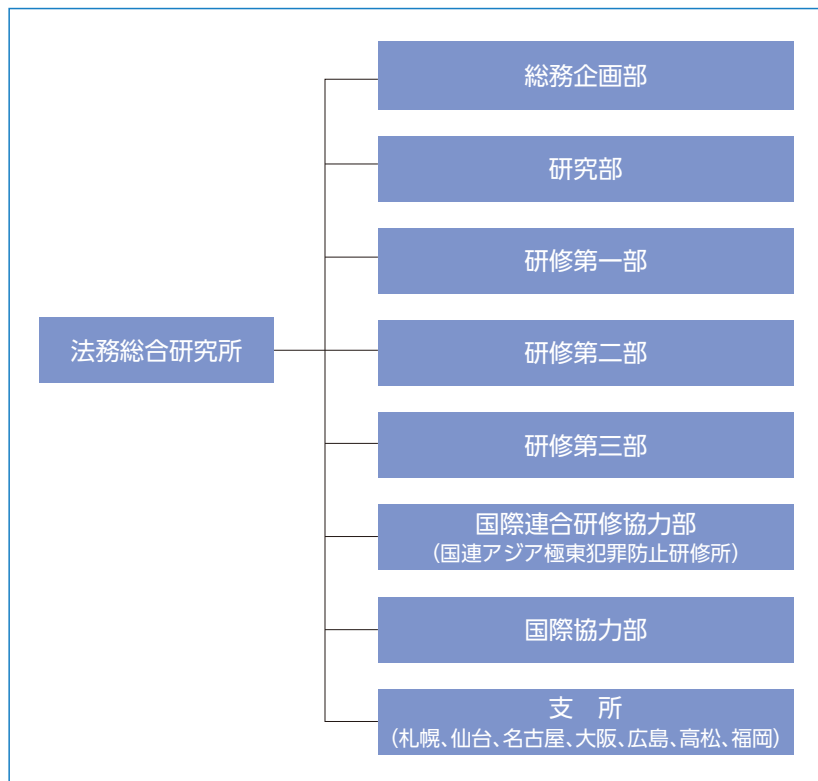


アジア研2代目庁舎における講義風景

アジア研の組織

アジア研の事業は、日本の法務省法務総合研究所国際連合研修協力部が運営・実施しています。国連との協議を経て、国際連合研修協力部長がアジア研所長に任命されており、検察官、裁判官、矯正・保護職員などの経験を有する教官及び職員が、UNODC、独立行政法人国際協力機構（JICA）をはじめとする関係機関の協力を得ながら、各種事業の企画・実施などに当たっています。

法務総合研究所の組織図



アジア研マスコットキャラクター
「うなふえい君」



アジア研教官による講義



職員による海外研修参加者到着の歓迎

国際研修・国際高官セミナー

国際研修はアジ研の中核業務であり、毎回国連や国際社会での重要課題を取り上げ、変化するグローバル社会への対応やSDGsの推進を図ってきました。アジ研は、1962年9月に第1回国際研修を実施して以来、毎年国際研修（年2回）と国際高官セミナー（年1回）を実施し、その回数を重ねてきました。

春の国際研修では主に犯罪防止や捜査・公判を、秋の国際研修では主に犯罪者の処遇を扱っています。また、国際高官セミナーでは、各国の刑事司法の高官を対象として、広く刑事司法に関する問題を取り上げています。研修参加者は海外研修参加者と日本人研修参加者合計で毎回20名から30名程度で、研修期間は4～5週間です。

研修・セミナーのプログラムは、研修参加者による各国の犯罪情勢や刑事司法制度の発表、国内外の専門家やアジ研教官による講義、刑事司法関係機関の見学、グループワークショップや全体討議などで構成されています。



グループワークショップ



各グループによる発表



研修参加者による個人発表

地域別・国別研修

アジア研は、世界各国や国連などの要請を受け、特定の地域や国を対象として、アジア研における研修や現地におけるセミナー等の技術支援も実施しています。その中でも最も規模が大きいものは、2007年から実施しているグッドガバナンス・セミナー（GGセミナー）です。これは、東南アジアにおける法の支配と良い統治（グッドガバナンス）の確立に向け、汚職対策についての取組を強化するための具体的施策を検討するもので、東南アジアを重点地域とした刑事司法分野の人材育成、能力強化、法制度の整備等に関するセミナーを開催国の刑事司法関係機関や国際機関と共催しています。

この他に以下のような国別研修を実施しています。

- (1) 2013年から、日本とネパールの刑事司法制度の比較共同研究を行い、同国の刑事司法改革・改善に向けた支援を行っています。
- (2) 2016年から、ベトナムの刑事司法制度の改善を目指して、日本とベトナムの刑事司法制度の比較共同研究及びベトナム法制度整備支援研修を実施しています。
- (3) 2018年から、UNODC 東南アジア・太平洋地域事務所と共同して以下のような支援をしています。
 - ・東ティモールの矯正社会復帰支援局を対象とした刑務所運営の改善のためのセミナー
 - ・フィリピンの施設内及び社会内の犯罪者処遇を担当する職員を対象とした技術支援
 - ・カンボジアにおける社会内処遇についての技術支援



第16回GGセミナー



ベトナム共同研究



フィリピン犯罪者処遇に係る技術支援



東ティモール刑務所改革支援

その他の研修やセミナー

(1) 汚職防止刑事司法支援研修

1998年から汚職防止刑事司法支援研修を実施しています。4～5週間にわたり、参加国における汚職犯罪の現状及びこれに対する刑事司法の対応と課題を検討して明らかにするとともに、国連腐敗防止条約（UNCAC）に定められた方策と照らし合わせながら、より効果的に汚職犯罪対策上の課題に対応できる刑事司法制度のあり方や、これを適正に運営するための具体的な方策を検討するものです。

(2) ユース国際研修

2021年に、日本国内の学生及び海外からの留学生を対象にするアジ研での試みとしてユース国際研修を開始しました。刑事司法や犯罪者処遇に関連した研修テーマについて、国内外の取組や課題を学び、参加者同士で対応策などについてディスカッションをするものです。

(3) 再犯防止・被害者保護研修

2022年に、SDGsを中核とする持続可能な開発のための2030アジェンダに刑事司法の観点から貢献することを目標として、包摂的社会の構築を促進するための効果的な方策を議論する新たな研修を開始しました。再犯防止と被害者保護の各テーマについて、隔年で実施しています。



汚職防止刑事司法支援研修



ユース国際研修



再犯防止・被害者保護研修

国連の活動に対する貢献

アジ研は、国連が目指すグローバルな犯罪防止や犯罪者処遇に関する政策の立案・実施に協力しています。例えば、毎年、ウィーンで開催される国連犯罪防止刑事司法委員会（国連経済社会理事会の機能委員会、コミッション）に出席し、アジ研の活動や調査研究成果を報告しています。また、アジ研は、各種研修・セミナーのテーマを選定するに当たっては、各国のニーズはもとより、コミッション、国連経済社会理事会、国連総会を通して決定された国連犯罪防止刑事司法プログラムの優先事項を十分に考慮しています。

5年に1回開催される刑事司法分野における国連最大の会議、国連犯罪防止・刑事司法会議（コングレス）においても、アジ研は、PNIとして、積極的に参加・貢献する役割を担っており、第10回会議以降、毎回、ワークショップを企画・運営しています。

アジ研が企画・運営したコングレスワークショップ一覧

第10回コングレス（2000年）	ウィーン（オーストリア）	「コンピュータ・ネットワークに関連する犯罪」
第11回コングレス（2005年）	バンコク（タイ）	「マネーロンダリングを含む経済犯罪対策」
第12回コングレス（2010年）	サルバドール（ブラジル）	「矯正施設における過剰収容に対する戦略とベストプラクティス」
第13回コングレス（2015年）	ドーハ（カタール）	「女性犯罪者及び非行少年の処遇及び社会復帰」（女性犯罪者の処遇及び改善更生に関するパネル）を共催
第14回コングレス（2021年）	京都（日本）	「再犯防止：リスクの特定とその解決策」



第12回コングレスワークショップ



第13回コングレスワークショップ

京都コンGRESS

2021年に京都で開催された第14回コンGRESS（京都コンGRESS）に関し、アジ研は以下のような活動を行いました。

(1) ワークショップ

アジ研は、UNODC 及びタイ法務研究所（TIJ）と共催し、ワークショップの一つを開催しました。本ワークショップのタイトルは「再犯防止：リスクの特定とその解決策」であり、基調講演に続き、三つの議題によるパネルディスカッションが行われました。

本ワークショップの総括として、犯罪者の更生は、SDGs が掲げる、包摂的で持続可能な社会の創設のために不可欠であること、犯罪者の社会への再統合に向けた刑事司法の全ての段階において、社会復帰に適したプロセスや環境を確保することが再犯防止にとって非常に重要であることが確認されました。ワークショップの議論は、モデレーターから京都コンGRESS全体会合にその結果が報告され、「京都宣言」にその内容が反映されました。

(2) 附属会合（アンシラリーミーティング）

京都コンGRESSでは、約150件のアンシラリーミーティングが開催され、アジ研も公益財団法人アジア刑政財団（ACPF）と共催で「アジ研の研修及びセミナーのフォローアップ」を開催し、卒業生（アラムナイ）ネットワークの強化を図るとともに、法務省保護局と共催し、世界保護司会議を開催しました。

(3) フォローアップ

京都コンGRESSのフォローアップとして、アジ研は、2022年10月、全世界に広がるPNI等から専門家を招へいし、再犯防止のための技術支援に関するPNI専門家会合を開始しました。



京都コンGRESSのロゴマーク



ユースフォーラムのロゴマーク



第14回コンgresワークショップ

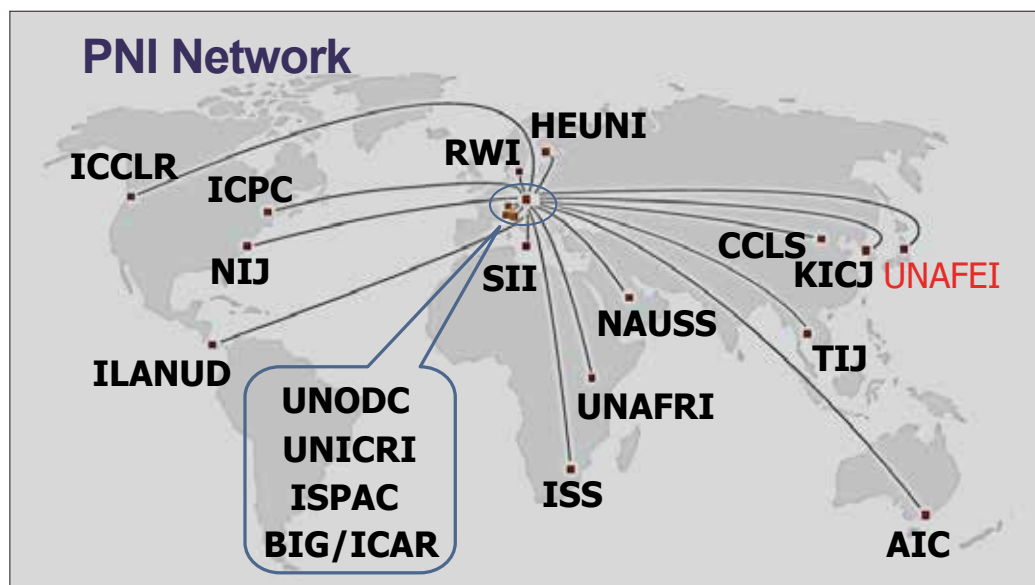


アンシリリーミーティング「アジ研の研修及びセミナーのフォローアップ」

国連関連機関として

国連犯罪防止・刑事司法プログラム・ネットワークは、UNODC 及び世界中にある 18 のプログラム・ネットワーク機関 (PNI) からなり、世界の刑事司法の改善に貢献しています。アジ研は、最古の PNI であり、UNODC や他の PNI と連携・協力しながら、研修や調査研究を実施しています。また、PNI の立場からの国連会議への積極的な参加等を通じ、SDGs や、国連の政策の形成や実現に貢献しています。

全世界に広がるPNI



アジ研において開催したPNI会合

アジ研の国際協力

アジ研の教官や職員は、国連テロ対策委員会、グローバル・テロ対策フォーラム、国際刑事法・刑事施設財団、ワールド・ジャスティス・フォーラム、国際検察官協会総会、アジア太平洋矯正局長等会議、国際矯正刑事施設協会総会、世界保護観察会議などの国際会議やフォーラムに参加し、講演や発表を行っています。また、世界中の国際機関等と積極的に協力覚書（MOU/MOC）を締結し、刑事司法の発展のため、様々な国際協力活動に積極的に参加しています。

アジ研が他機関と締結している協力覚書一覧

2014年	中国の北京師範大学刑事法律科学研究院（CCLS）
2015年	韓国の韓国刑事政策研究院（KIC）
2016年	タイのタイ法務研究所（TIJ）
2017年	ブラジルの連邦検察庁高等学校（ESMPU）
2022年	欧州保護観察連合（CEP）
2022年	国際刑事裁判所（ICC）



アジア太平洋矯正局長等会同



TIJとのMOU締結



CEPとのMOU締結



ICCとのMOC締結

アジ研での生活

アジ研は、東京都昭島市の国際法務総合センター内にあります。同センターの国際棟には、4か国語同時通訳が可能な国際会議場Aを始め、国際会議場B、多目的ホール、図書室、セミナー室、食堂など、全寮制の研修実施に必要な設備を完備しています。

アジ研の研修参加者や海外から招へいする客員専門家は、研修所に併設された宿泊施設に滞在します。アジ研では、研修参加者等ができるだけ快適に生活できるように食事や生活環境についての工夫をしているほか、ジムでの運動や卓球などが楽しめます。



国際会議場A



国際会議場B



寮室



食堂



図書館



和室

アジア研出版物

アジア研では、研修の成果等をまとめた以下のような出版物を定期的に出版するとともに、アジア研教官による調査や活動の結果を不定期に刊行しており、それらの全てをウェブサイトで公開しています。

(1) 研修資料集

アジア研の国際研修の成果を掲載した出版物で、年2回から3回発行しています。主にアジア研の研修で海外客員専門家が使用した資料や、研修参加者が執筆した論文の中でも優秀なものが掲載されており、各研修の主要課題についての国際的な知見や、海外での実情を知ることができる貴重な出版物です。2023年からは「邦訳版 UNAFEI リソース・マテリアル・シリーズ 世界の刑事司法」も出版しています。

(2) コングレスワークショップ報告書

アジア研が主催した kongress のワークショップの成果を報告書として出版しています。2021年に京都で開催された第14回 kongress において、アジア研が主催した「再犯防止：リスクの特定とその解決策」についてのワークショップの成果も出版されています。

(3) アジア研の活動報告

アジア研で実施している各研修の概要は、オンラインで発行されているニュースレターに掲載されています。また、アジア研の毎年の活動内容は、年に1回国連に報告をすることとされています。この報告書は、年次報告として、アジア研のウェブサイトにも掲載されています。

(4) GG セミナー報告書

アジア研が2007年から毎年実施している GG セミナーの成果を出版しています。東南アジアの汚職対策についての各国からの報告が掲載されています。



アジア研図書室のアジア研出版物コーナー



京都 kongress ワorkshop 報告書

市民参加・協力

アジア研の活動に際しては、アジア刑政財団（ACPF）の本部及び支部から、研修参加者等との国際親善パーティーや懇親会の開催、公開講演会の共催など、多くの支援を受けています。ACPFは、アジア研の活動の支援を主な目的として、1982年に設立された財団法人で、2014年4月に公益財団法人に認定されました。また、国連NGO（国連において諮問的地位が認められる国際的非政府組織）のトップカテゴリーである総合協議資格を付与されており、国内外に支部があります。

また、ロータリークラブ、国際ソロプチミスト、保護司アジア研協力会等多くの市民ボランティアの方々からも、茶道、生け花、琴の演奏会など、研修参加者が幅広く日本文化に接する機会を提供していただいています。



国際ソロプチミスト昭島によるお茶会（第173回国際研修）



ホームビジット（研修参加者による保護司宅訪問）



アジア刑政財団広島支部主催交流会

アジア研卒業生のネットワーク

アジア研の過去60年以上にわたる研修への参加は143の国及び地域に達し、研修参加者数は6,300名を超えています。アジア研卒業生の多くは、その後、自国の刑事司法分野において指導的な役割を果たしており、強力なネットワークを構築しています。犯罪のグローバル化が著しい今日では、国境を越えた刑事司法関係者による人的ネットワークは、経験や情報を共有する上でも、国際協力を円滑にする上でも、極めて貴重な宝です。

このネットワークを更に強固にするため、ネットワークリストを作成した上、メールマガジンアジア研卒業生に送信し、アジア研の最新の活動状況を定期的に紹介しています。

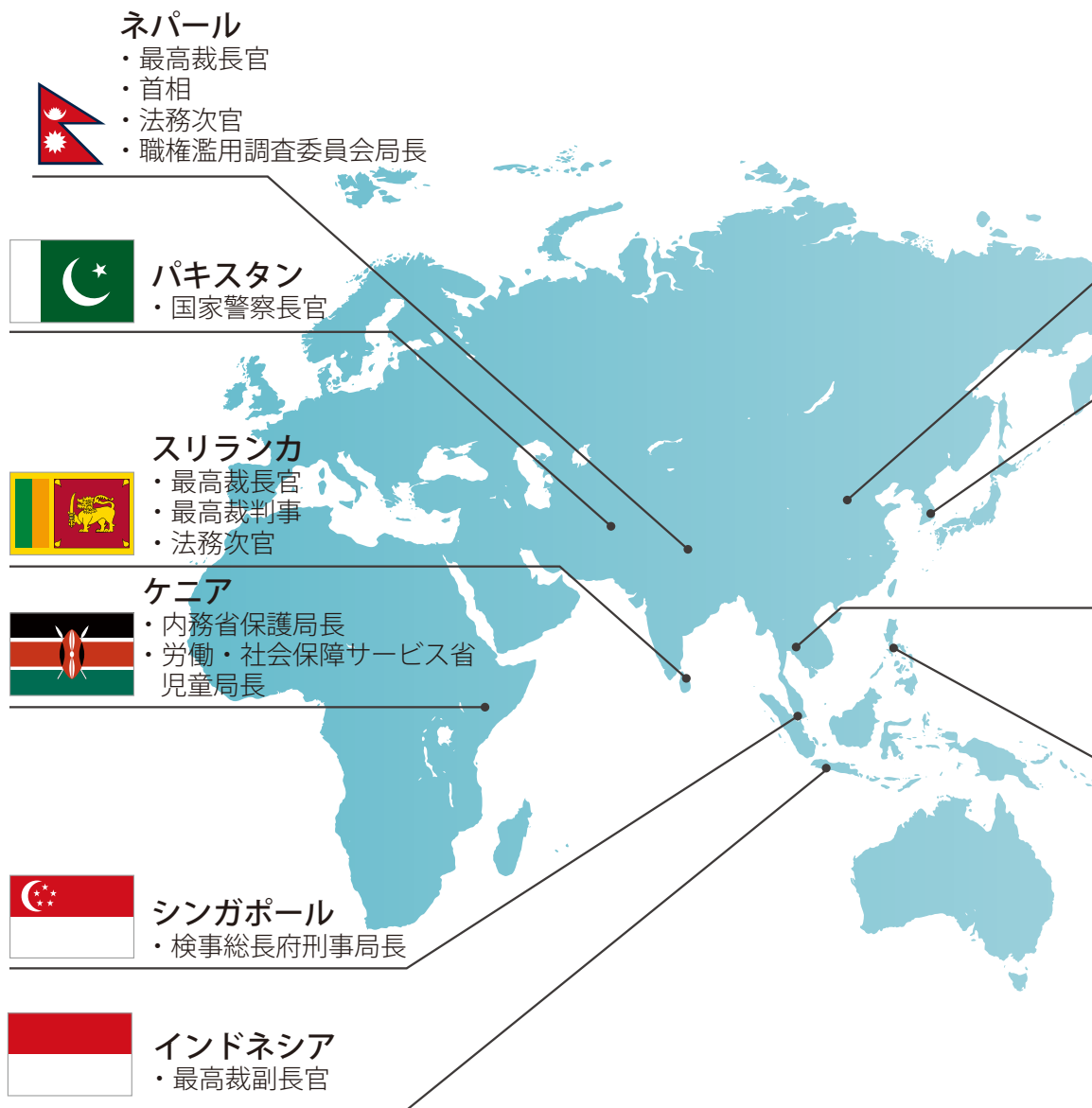
世界に広がるアジア研卒業生ネットワーク（2023年4月1日時点）

アジア	3,209	大洋州	225	アフリカ	752	北・南アメリカ	326
アフガニスタン	39	オーストラリア	3	アルジェリア	8	アンティグア・バーブーダ	2
バングラデシュ	97	フィジー	60	ボツワナ	13	アルゼンチン	7
ブータン	28	キリバス	2	ブルキナファソ	19	パルパドス	3
ブルネイ	25	マーシャル	5	ブルンジ	1	ベリーズ	11
カンボジア	66	ミクロネシア	2	カメルーン	6	ボリビア	2
中国	270	ナウル	2	チャド	20	ブラジル	80
香港	82	ニュージーランド	2	コートジボワール	44	チリ	9
インド	103	パラオ	3	コンゴ民主共和国	35	コロンビア	14
インドネシア	241	バブアニューギニア	85	エジプト	34	コスタリカ	19
イラン	42	サモア	19	エチオピア	6	キューバ	1
イラク	38	ソロモン諸島	10	ガボン	2	ドミニカ共和国	4
ヨルダン	17	トンガ	19	ガンビア	3	エクアドル	7
韓国	119	パヌアツ	9	ガーナ	8	エルサルバドル	13
ラオス	94	クック諸島	4	ギニア	9	グレナダ	1
レバノン	1			ケニア	253	グアテマラ	8
マレーシア	193	ヨーロッパ・ユーラシア	251	レソト	3	ガイアナ	5
モルディブ	49	アルバニア	4	リベリア	1	ハイチ	1
モンゴル	18	アルメニア	4	リビア	1	ホンジュラス	16
ミャンマー	106	アゼルバイジャン	4	マダガスカル	5	ジャマイカ	12
ネパール	230	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2	マラウイ	14	メキシコ	6
オマーン	5	ブルガリア	2	マリ	25	ニカラグア	2
パキスタン	112	エストニア	1	モーリタニア	17	パナマ	25
パレスチナ	13	ジョージア	3	モーリシャス	5	パラグアイ	15
フィリピン	331	ハンガリー	1	モロッコ	10	ペルー	33
サウジアラビア	17	カザフスタン	30	モザンビーク	5	セントクリストファー・ネイビス	2
シンガポール	92	キルギス	37	ナミビア	11	セントルシア	3
スリランカ	163	ラトビア	1	ニジェール	21	セントビンセント及びグレナディーン諸島	2
台湾	21	リトアニア	1	ナイジェリア	31	トリニダード・トバゴ	2
タイ	385	北マケドニア	2	南スーダン	5	アメリカ（ハワイ）	1
東ティモール	21	モルドバ	5	セネガル	17	ウルグアイ	4
トルコ	8	モンテネグロ	1	セーシェル	5	ベネズエラ	16
アラブ首長国連邦	1	ポーランド	1	シエラレオネ	3		
ベトナム	175	ルーマニア	1	ソマリア	2	日 本	1,619
イエメン	7	セルビア	1	南アフリカ	10	合 計	6,382
		タジキスタン	74	スーダン	22	(2023年4月1日現在)	
		トルクメニスタン	8	エスワティニ	2		
		ウクライナ	20	タンザニア	27		
		ウズベキスタン	48	チュニジア	3		
				ウガンダ	12		
				ザンビア	15		
				ジンバブエ	19		

世界で活躍するアジ研卒業生

アジ研の卒業生たちは、研修の成果を大いに発揮して自国の刑事司法の向上に励み、世界中で活躍しています。法務大臣、最高裁長官、検事総長等の高位高官に就いた人も多数います。

世界で活躍するアジ研卒業生





中国

- ・最高人民法院院長
- ・最高人民法院副院長



韓国

- ・法務大臣
- ・検事総長



タイ

- ・法務大臣
- ・最高裁長官
- ・検事総長
- ・法務次官



コスタリカ

- ・駐日大使



フィリピン

- ・次長検事
- ・国家警察委員会委員
- ・法務省保護局長



ブラジル

- ・連邦検察庁
国際協力局長



サモア

- ・最高裁上席判事



ペルー

- ・国際刑事裁判所
判事



フィジー

- ・国際連合人権理事会議長
- ・国際刑事裁判所次席検察官



国連アジア極東犯罪防止研修所

United Nations Asia and Far East Institute
for the Prevention of Crime
and the Treatment of Offenders



東京都昭島市もくせいの杜2丁目1番18号
〒196-8570

Tel : 042-500-5100

Fax : 042-500-5195

Email : unafei@i.moj.go.jp

Website : <https://www.unafei.or.jp/>

(令和5年5月発行)



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。